

23春闘に向けた見解

私たちは、新型コロナウイルス感染症への対応や自然災害からの復旧作業など、要員不足という根本的な問題を抱えながらも休日勤務や突然の勤務変更に協力することで乗り越えてきた。さらに、施策に向きあい、系統を問わず各職場では安全・安定輸送の確保に向けて奮闘し、黒字に向けてコストダウンに努めてきた。また、増収の為に不慣れな企画業務にも挑戦し、遂に念願の黒字を達成した。

しかし、期末手当における会社回答は、JR 東日本において夏季手当 2.3 カ月、年末手当 2.4 カ月+2 万円、年間 4.7 カ月+2 万円、JR 東日本ステーションサービスは夏季手当 2.05 カ月、年末手当 2.45 カ月で年間 4.5 カ月、ジェイアールバス関東は夏季手当 1.4 カ月、年末手当 1.6 カ月で年間 3.0 カ月であった。この回答は必死の思いでグループ全体の黒字を達成した職場の努力に報いているとは到底思えない！

職場で働く者からは「もう我慢の限界だ」「過去最高の働き度で過去最低の回答」「賃金減少と物価上昇による生活苦でモチベーションが上がらない」「TV 放送で大手企業が賃上げすると言い切ったり、前向きに検討すると回答していく中で、JR 東日本の社長だけが賃上げ慎重と回答していて本当に情けなくてガッカリした」という声がアンケートなどで多く寄せられている。

私たちは 21 春闘で「昇給係数 2、ベアゼロ」、22 春闘で「昇給係数 4、ベアゼロ」との会社回答を受けた。ベア要求実現と定期昇給（昇給係数 4）の完全実施を実現させるため、対話やアンケートを通じて組合員や未加入者の声を集約し、「生活実感」「労働実感」をベースに要求を練り上げてきた。しかし、組合員の苦しむ声とは裏腹に、「思ったよりもらえてよかった」という社内世論が一部社友会によって形成された。これは団体交渉で「一定数の声が集まっている」と会社が回答したことに現れている。しかし、多くの社友会員は意見を聞かれたことすら無く、利用されたと口々にして会社への不信感を募らせている。

先日実施した過半数代表者選挙においても、多くの職場で東労組の組合員が立候補し銚子運輸区では勝利、佐倉運輸区では信任投票となっている。その他の職場でも組合員数以上の票を獲得している。ここまでの経過は職場と JR 東日本を良くしたいという多くの社員の真意に基づくものではないのか。この事からも春闘や期末手当に対する会社回答などを含めた今の経営姿勢に誤りがあると会社は重く受け止めるべきだ。

今、若手社員を中心に離職者が止まらない。離職を決めた理由は「希望しない転勤でキャリアビジョンが描けない」「会社が信用出来ずに不安と不満が積み重なった」「会社に対して不信感が募っていた」「今の会社に魅力がない」という事だった。

人気企業ランキングは年々順位を下げ、社内、社外から見ても魅力ある企業では無くなってしまった。今一度「JR 東日本は一流企業だ」と胸を張って言えるように 23 春闘勝利に向けて経営と社友会の本質を語り合いながら、JR 東労組への組織拡大を実現する事で現実を変えていこうではないか。

「要求実現と組織拡大は両輪である」の意義を今一度捉え返し、全組合員の総力で組織強化・拡大を実現し 23 春闘勝利に向けて職場からたたかいを創り出そう！

2023年 3月 3日

東日本旅客鉄道労働組合千葉地方本部 成田支部

佐倉運輸区分会

銚子運輸区分会